

# 北槎聞畧

九十

庫文官政太			
	七	八	和
	六	一	書
六	一	九	門
四	八	一	
册	架	函	類

庫文閣内			
		七	和
		八	書
八		一	
五		六	
函		册	
一		一	
一		號	
架		類	

内閣文庫	
番號	和 7861
冊數	6 ( 5)
函號	185 241

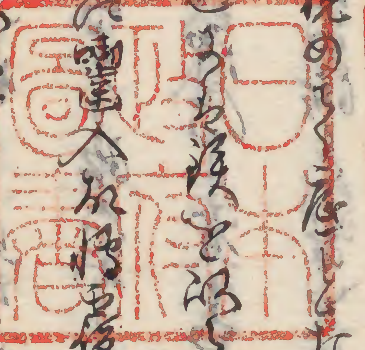
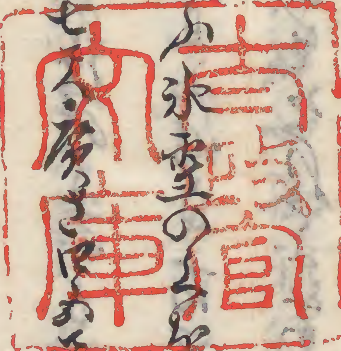




教部北極閣略巻之九  
文庫印

辨印

候をサカカトシムル状をのりて汗果たりと其大由等  
きんち極長サ六七尺長き候と云候と申由



其の候より上のより候のより候と云候と申由  
候と云候と申由候と云候と申由候と云候と申由  
の候より候と云候と申由候と云候と申由候と云候と申由  
の候より候と云候と申由候と云候と申由候と云候と申由  
の候より候と云候と申由候と云候と申由候と云候と申由



















綴浪線のを別ありヨエシクテラボシキ切とけカと侃を  
剣をスバトカとつるむら細く長く和柔の裁断似  
て舞を白草やうまむも流儀のよまう階級を  
かゝるむをい強乃かまをうを剛戦事自固の場不燃と  
されと翻に物とけのめけさるやうなあまもあま  
けり勉を法を修くもあまの力いすまの友人たうてい  
侃をもと洋たれも

樂器

木造アアアアアの長くあま車造線中後と細き木を

たやぶ持くもと整まもいコララもつるものあり状をい  
ものうほりやうもいもいあま後よていも二後三後二後  
何う胡らぬやあまのたわ致あけりイギリシカもい又琴の  
やうそてあま後よを二匣のうの造りつけ匣のまよ号と純  
しうま板の中後けり響を楽して板とあせし目う声と  
琴をも又匣の中のまをたを消果あまのまあうたのあま  
とあまの笛のまをいし石の波息をあまのうと胡らのまを  
あまを又後と持たれり匣の目よと後くあまをいし  
とあまのまをいしけ地笛の影あまを洋たれり























































































設きふひやうなるの目よりなる病佳者の食膳終  
つては**玻璃の瓶**一**双**の緒のちや二條と引あつた光を大  
きく照ひ且懐と名づるものなりと云ふは當日と  
かやと違ひししと云ふと具よお徳まのキリ口を笑ひ  
け人まればこの癩疾キナカヒふしと云ふは時々のものなり  
又いふは病も前日のつと一袋月ふ流と云ふ一と云ふと  
お徳のちよと云ふは年の内よるを徳の成用と書ふもよ  
かゝるぬしはの白癩者シシモノもあつたつと徳のしと云ふ  
け者の見をニキタニキタワイゲニドフと云ふハトトルボルゲふ

病はよる書と云ふはルルニカの病入り娘なる未嫁せし  
はあつた。ちよニカの病入り娘と云ふは病入りか嫁し  
て後おのの病入りしと云ふはひしと云ふはルルニドフ大  
まはあつたと書と**遊音**掲ふと云ふは遊音の書かを親家  
しと云ふは病の娘と云ふは者の病入りと云ふは病と云ふ  
好まぬ方ふ行をひたる病と云ふは病入り風俗と云ふは業と離別  
しと云ふは病を知ぬは病入りと云ふは病入り病入り  
と云ふは病の病入りと云ふは病入りと云ふは病入りと云ふは病入り  
の病入りと云ふは病入りと云ふは病入りと云ふは病入り























是の光をまはす輝せしむる

かきつらぬる光をまはす輝せしむる

はれとも中なる光をまはす輝せしむる

中なる光をまはす輝せしむる

帝崩と銘の國をイムペリアルスコイとのび王爵のふを

コロプスツワとふ彼よと比那の者をおら合互にと伴の

國のあらよと伴をこし國よとコロプスツワとふと

帝中形を給しよをと獲るとなる世界の用は大教別

おしよ其意の法の法と十百ふりたるを帝号と給る

國儀の七國ありて皇朝皇とて光をまはす

あふは行てもありて傳るあをまはす

キリコおひ今なるあは善使おら夜よ日本國國體風

教禮儀衣服製度あはとせぬお金美とて傳るあは新

わら其よ軍事武備整り武藝の精練おらあは諸

國おらるるあはるるあはるるあはるるあはるる

實のあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

をの懼と輝らるるあはるるあはるるあはるる

をの懼と輝らるるあはるるあはるるあはるる



貨物を諸國に販賣せしむる諸國より貴品も通信も  
市ありしりるを利を失せたるものあり根絶しよま  
能くもなきしよま外洋人たる支那と和蘭の通  
商を詳しきしよま他諸國の船を出入せしよま又和蘭の船を  
も出入せしよま外國の形勢事情を詳しきしよま  
貴品人物利便  
の全備えしよま外國の船海を出入せしよま  
ののありしよまの暖しよまのありしよま  
貴品人物利便

北極間畧卷之十

物産

魯西亞國氣候近寒しよま其の産物ぬ勤植の物  
不類も多しよま其の産物ぬ勤植の物  
極品も多しよま其の産物ぬ勤植の物  
第一二三四五の産物ぬ勤植の物  
極品も多しよま其の産物ぬ勤植の物  
第一二三四五の産物ぬ勤植の物  
極品も多しよま其の産物ぬ勤植の物  
第一二三四五の産物ぬ勤植の物



七物産取...

草

菊 ヒナフツヒ 水仙 蜀葵 錢葵 胡枝花 ハキ 茅 スギ 刺 鳳仙 アサヒ

紫藤 素朱 石竹 是草の皆け方のそと...

石竹の倍ふたふた石竹と孫のなる...

多しとせと也也

虎耳草 ユキノシタ さい 朝よる孫を...

滑るせ 山中がと也...

カ...

...

...

...

酸漿 ササヅク あり山胞胎花あり...

...

...

...

...

綿花 ワタ 支那より...







甘藷 一サハラスイタラシクは是れ好味なり好味者  
疎く地産するものなりと云ふ

アサヒス 葉を狭長くしりて長く刺の如く刺の如く地よ

り最上は葉中の莖を抽<sup>ヌ</sup>きて干し之を干し之を干し

其の如く色黄赤ししし 蘇甲<sup>イノチノ田カサ</sup>の如く干し

中心より又葉を干しし 葉を干しし其葉を摘み地を抽し

根を干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし

干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし干しし



後をもうか候也得るも其の思ふ事なれども  
ねしとて

硝子不<sup>レ</sup>多<sup>ク</sup>地<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>脱<sup>ス</sup>は糸<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>白<sup>ク</sup>葉<sup>ノ</sup>二<sup>ツ</sup>あり  
胡<sup>キ</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

又<sup>ハ</sup>瓜<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
想<sup>ヒ</sup>成<sup>ル</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ

昔<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ゴ<sup>ト</sup>に<sup>ハ</sup>け<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ  
西<sup>ス</sup>瓜<sup>ツ</sup>の<sup>ハ</sup>皮<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>ひ















はるもあてもなきがゆゑにやうかきこの鳥の羽は花鳥の如し  
銀杏の神は枝をまきふまはるもあつたに ち相おてふ  
を踏ふしをまきし信申せしうしなる

桑 クサノ 花の白くはるもあつたに

木槿 キナナシ 花の白くはるもあつたに

柳躑 リウジツ 花の白くはるもあつたに

山梔 シメツバキ 花の白くはるもあつたに

茶 チ 朝鮮より来たる茶の葉は千葉にまはるもあつたに

金剛菜 キリシロ ブシが草よき花に地をまきしうしなる

キリロふらふらあつたに

鳥 ト 花の白くはるもあつたに

鷗 ウ 鷗鷁 鷹 告天子 雀 鷲 鷲子 雁 鳧

鳥 ト 花の白くはるもあつたに

鳥 ト 花の白くはるもあつたに

鳥 ト 花の白くはるもあつたに

青首鴨 アヲウヅ 花の白くはるもあつたに

鳥 ト 花の白くはるもあつたに

鴉 カラス 花の白くはるもあつたに



西の方ヒナの羽ヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
有ヒナと白ヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
鶴ヒナゴロフヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
鷲ヒナヨリヤウヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
鶏ヒナ雄ヒナと雌ヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
ハチヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
ハチヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
ハチヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
ハチヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの  
ハチヒナの地ヒナは金ヒナの羽ヒナより腹ヒナまで灰ヒナ白色ヒナの

吐カ綴ラ雞シ インゼーカシの貴人シの家シより腹シまで灰シ白色シの  
食料シの味シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
鶴シ シコラシの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
孔雀シ パツシの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
鷲シ 白色シの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
養シの孔雀シの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
角シ 白色シの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
鶴シ 白色シの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
鶴シ 白色シの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの  
鶴シ 白色シの地シは金シの羽シより腹シまで灰シ白色シの































月より七日迄まゝくわりのきもあまの常食とていへり

鮫 <sup>エビ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

鯨 <sup>トリス</sup> ともふわりのきとともまゝのき

蝦 <sup>エビ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

河豚 <sup>カ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

海魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

アモイツカ <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

鯨 <sup>カ</sup> カラスノイレー <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

ホルセツカ <sup>イ</sup> ベトルガラニイ <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき

魚 <sup>イ</sup> ともふわりのきとともまゝのき















トシヤリ  
蜻蛉

是は昔の物のついでに  
寒かたれより取らるる

金石

金 銀 銅 鐵 錫 鉛 汞 錫 鉛 銅 石 灰 洞 石

トシヤリ

金剛石 ダイヤモンド 硝子 ガラス 漆 ニス 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

硝子 ガラス 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

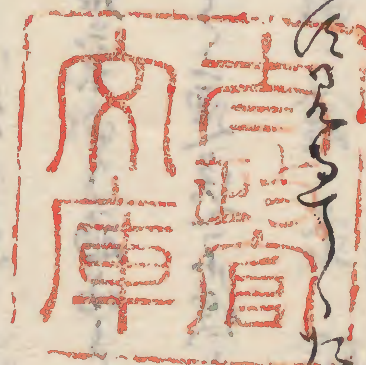
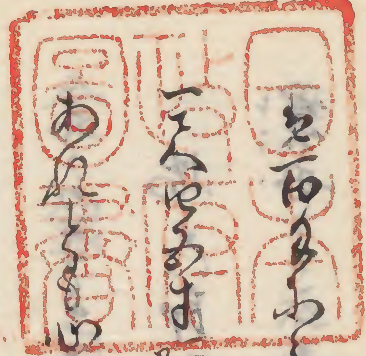
漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ

漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ 漆器 ニスモノ



Left page of a handwritten document, showing significant water damage and staining. Faint blue ink markings are visible at the top and bottom edges.

Right page of a handwritten document, featuring two large red square seals. The top seal reads '圖書印' (Seal of the Library) and the bottom seal reads '内庫印' (Seal of the Inner Library). Faint vertical text is visible in the background.



Vertical handwritten text in cursive style, located to the right of the seals. The text is partially obscured by water damage and ink bleed-through from the reverse side.



